

○議長 辻本 一夫君

次に3番、長島議員の一般質問を許します。長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

3番、長島です。通告書に従いまして質問のほうを始めさせていただきます。

件名1、芦屋港レジャー港化の現状と今後の展望について。

先日のゴールデンウィークは、久方ぶりの制限なしの長期休暇を楽しんだ方も多いのではないのでしょうか。私も糸島、宗像、また今や飛ぶ鳥を落とす勢いの岡垣町など、海沿いの町をドライブしながら楽しむことができました。共通して感じたのは、いずれも海岸線に多くの飲食店やショップなど気軽に立ち寄れるスポットがたくさん点在し、お客さんを誘致しているということです。新しいお店もどんどん増えており、どこも満員大盛況なイメージを受けました。これも官民一体のPRや事業所の努力ということが言えるのではないのでしょうか。

一方で芦屋町に目を向けてみると、海、夏井ヶ浜に続く海岸線、芦屋釜、芦屋ボート、おいしい魚介類など、ほかにも負けないたくさんの魅力があります。しかしながら、いま一つ観光誘致につながっていない気がするのは皆様も感じるところではないのでしょうか。ゴールデンウィーク中の観光協会のレンタサイクルは延べ1,065台、わんぱく手前にある海浜公園駐車場からプール横の砂像展会場横まで満車が続けておりました。資料のほうを御覧ください。

ゴールデンウィーク中には、海浜公園だけでも5月4日・5日などは3,500名の方々が芦屋町に来町してくれております。せっかくこれだけの人たちが来町してくれているのですが、うまく町内回遊につながっていない気がいたします。観光基本構想も本年度新しくなることですし、海岸線を含め、町内を回遊できるつながりのある流れをつくっていくことを今のうちに考えていくことが重要だと思い、そこでお聞きします。

要旨1、観光動向調査について。

活性化推進室では芦屋港レジャー港化に向けての芦屋港周辺地域の観光動向調査を昨年度実施しており、そのアンケート結果を見させていただきました。約1,500人もの来町者に対し聞き取り調査されており、観光動向の実態やニーズなど細かく調査されており、大変評価できる内容でした。今後、この調査内容を生かすことが非常に重要であると感じています。そこで、気づいた点についてお聞きしたいと思います。

まず、町内滞在時間が2時間未満の、1か所立ち寄りのピンポイントの来町が目立ちます。いわゆる、次に行ってみよう的な町内回遊が少なく、また町内消費額が100円未満と非常に少ない傾向と言えます。この現状についてどう捉えているかお聞きします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

今回の調査につきましては、まん延防止措置等の影響がございまして、昨年10月から11月の間の17日間、町内7か所で調査を行いました。

各調査実施箇所におきまして様々な実態が把握できましたが、全体的な特徴としましては議員御指摘のとおり、来訪者が町内に回遊していないこと、消費額が非常に少ないことが大きな特徴と言えます。これは大半の方が目的地以外の情報を知らない、知っていても場所や駐車場が分からないなど、来訪者が知りたい情報や行ってみたいと思わせる情報を十分に発信できていないことが要因の1つとして考えられます。

よって、この結果を今後の各施策や事業に生かしていくことが非常に重要と捉えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

非常に的確な分析ありがとうございます。

町内も多くの飲食店やカフェなど、皆様の努力のおかげで最近増えてきました。何とか町内に流れてほしいと思いますし、モーヴィとの連携や観光協会もいろいろな企画を練っていることと聞いておりますので、各所連携してもらい観光動向調査を生かし、これからは期待しております。

要旨2、県内では10自治体で、様々な分野で活躍している地域活性化企業人が芦屋町にも赴任しました。華々しくマスコミにも取り上げられましたし、また一般公募により5月から1名が登用され、みなと準備室とする新たなプロジェクトチームによって、いよいよ芦屋港レジャー港化がスタートラインに立った気がしています。そこで、みなと準備室についての現状や今後について伺います。

登用から数か月たちましたが、現在の状況について教えてください。また、今後の活動について言える範囲で教えてください。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

外部人材で構成しておりますみなと準備室は、現在2名体制となっております。1名は統括責任者として本年4月1日付にて国の地域活性化起業人制度を利用し、日本航空株式会社より派遣を受けております。また、統括責任者を補佐するリーダー人材につきましては、一般公募により本年5月1日付にて1名登用しております。この方は若松区にあるグリーンパークの指定管理現場責任者やPR、事業企画をはじめ、その他多くの経験とスキルを有しておられます。

令和4年第2回定例会（長島毅議員一般質問）

現在の状況についてですが、まずはそれぞれの経験や知見から芦屋町や周辺地域の現状を把握してもらうとともに、レジャー港化の検討経緯や進捗状況などの把握、今後のプロジェクトチームの在り方やタスクの整理などを行っているところです。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

みなと準備室の方々是非常に経験豊富で、アイデアに富むバイタリティーのある方々と思います。町内人材や町内団体、また町職員との交流の機会をぜひつくっていただきたいと思っています。交流を図ることで町を知る、また人を知るいい機会になると思いますので、ぜひ忌憚ない意見など言い合えるような場を設けていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

意見交換の場につきましては業務を推進していく上で必要不可欠と捉えております。将来的な人材育成につながるようにノウハウの継承を1つの業務としておりますので、現状把握のほかにこのような視点からも、観光協会やマリントラス、芦屋釜の里など関係者との意見交換も現在行っております。

今後は、状況に応じて対象を広げていくように取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

現状2人とお聞きしましたが、芦屋港レジャー港化は芦屋町の将来の方向性に大きく関わる根幹のプロジェクトと言えます。幾ら経験豊富とはいえ、2人体制では非常に荷が重いのではないかと感じています。3人目、4人目とチーム港をつくっていくことが必要不可欠ではないかと非常に強く感じています。さらに言いますと、みなと準備室の方々には契約年数が決まっております。終了までの期間の体制強化、また人材育成の意味でも町内人材や職員、また観光協会さんなどからの人材の研修や出向などもいいのではないかと考えます。

人を育み未来につなぐために、新たな人材登用や町内人材育成は考えているのかお聞きいたします。

○議長 辻本 一夫君

令和4年第2回定例会（長島毅議員一般質問）

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

外部人材の登用につきましては単に経験やスキルを生かしてもらうのではなく、将来的に自走できるように町内人材の育成が重要な視点となります。ノウハウ継承のために、どのように町内人材に関わってもらうことがよいか、現在検討を行っているところでございます。

また、外部人材につきましては本年度4名程度の登用を想定しておりますが、人数や登用方法にとらわれることなく必要な人材像を検討しておりまして、体制強化を今後進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

安心しました。積極的に登用し、将来的な運用を見据えておいてほしいと強くお願いしておきます。

では、現在取り組まれている機運醸成事業についてお聞きします。

昨年度から取り組まれております機運醸成事業ですが、コロナの影響でワークショップなどが十分にできていなかったと思われそうですが、現在の進捗状況についてお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

機運醸成事業につきましては7月以降、人材の発掘や育成のためのワークショップ、テストマーケティングの実施を中心に取り組む予定でございます。また、機運醸成は切れ目ない取組が必要であるため、現在みなと準備室において、昨年度のワークショップ参加者と意見交換の場を開催できないかと調整しているところでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

今年度から取り組むものがあれば、具体的に教えてください。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

令和4年第2回定例会（長島毅議員一般質問）

テストマーケティングは昨年度のワークショップで出された着地型観光の取組を精査するとともに、人材の発掘や育成につながる取組を行う予定でございます。現時点で具体的なものは決定しておりませんが、着地型観光に限定せず芦屋町の持つ魅力を引き出せるものや、時流に乗った取組は実施していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

ありがとうございます。

今後、そういったテストマーケティングは非常に重要になってくると思います。準備室の方々をはじめ町の方々からも「芦屋町のアウトドアスポット開設は大きな可能性を秘めているのでは。」との意見を個人的にも聞いております。

また、先日行われた港湾横の駐車場での第2回目のオートキャンプイベントは、自分も参加しましたが3日間で延べ台数150台で500人の方が来町されました。改めて、芦屋町でのキャンプは大きな可能性を秘めていると強く思いました。先ほどの観光動向調査でも、芦屋港周辺に必要なと思う機能・施設の中で、約25%の方々が「アウトドア体験のできる施設」と回答しています。これこそニーズと捉え、前向きに検討していただきたいと思います。

12月議会でも発言させていただきましたが、観光振興の上でも芦屋町に海の見えるキャンプ場開設は、今ある土地を利用しやすいこと、町に人が回遊しやすいこと、体験できること、また町内業者と連携しやすいというメリットもあります。ぜひ、実施事業の1つとして推進室のみならず各所連携し、引き続き検討しておいてほしいと強く思っています。

では、この機運醸成事業ですが、先ほどお聞きしたみなと準備室の活動と非常にリンクしていると思われます。みなと準備室との連携は今後、図っていく予定でしょうか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

みなと準備室の業務と機運醸成事業というのは密接に関連していますので、主体的に関わっていただくように考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

令和4年第2回定例会（長島毅議員一般質問）

芦屋港レジャー港化は町の将来、運命を握っていると言っても過言ではないと思っています。しっかりと足元を固めて取り組んでいただけるよう、お願いしておきます。

では、次に行きます。件名2、新たな観光資源と魅力づくりについて。

芦屋釜振興課が新しく創設されました。また、重要文化財芦屋釜の収蔵展示施設が新しく完成し、令和6年秋ごろのリニューアルオープンと聞いております。港のオープンに合わせ、海岸線の魅力づくりとしてレジャー港と芦屋釜の里周辺との連携は必要不可欠だと感じています。私も月に1度は必ず訪れますが、四季折々の景色も感じられ、芦屋町の歴史も感じられる本当に誇れる場所と思っています。もっとたくさんの人に訪れてほしいと本当に思います。今後、芦屋町の核と期待されます芦屋釜の里ですが、だからこそ次の質問をしたいと思います。

今後、観光分野でも新たな魅力を付加し、芦屋釜ブランドの拠点となると期待しているこれからの芦屋釜の里についてですが、どのように変わっていくのか、何か展望など具体的にあるなら教えてください。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜振興課長。

○芦屋釜振興課長 新郷 英弘君

それでは、今後の主な展望について申し上げます。

最も大きな変化としては、令和6年秋頃予定の芦屋釜の里収蔵展示施設のリニューアルオープン、それに伴う重要文化財指定芦屋釜の公開が挙げられます。芦屋町の新たなシンボルとして、町民の皆様のシビックプライドの醸成につなげたいと考えます。また、町内外から芦屋釜の里への集客を図るための目玉として活用したいと考えます。

併せて、芦屋釜をはじめとする芦屋鋳物の産業化を図るべく芦屋釜の里を拠点施設として、鋳物師と連携しながら芦屋鋳物の技術継承、多品種化や生産性向上への支援、対外的なPR等を図っていきたいと考えます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

はい、ありがとうございます。

町内外の方々の意見では総じて「いい場所ですね。」と気に入って帰られる方が多いのですが、町の若い方々や子育て世代のファミリーなどからは、「気にはなるんですが、敷居が高そうなので行きづらい。」また、「重苦しい雰囲気を感じる。」という声も聞きます。格式や敷居を下げたいとは全く思っていないのですが、芦屋釜も戻ってきます。観光スポットとしても捉えて、もう

令和4年第2回定例会（長島毅議員一般質問）

少し「見える化」して人が来やすいスポットにしてもらいたいと思います。せっかく、コンサートや展示イベント、また夏休みなどは子供向けのイベントなど年間通して歴史文化に触れることができる企画がたくさんありますので、たくさんの人に来て、見て、触れてもらえるよう、今後も引き続き芦屋釜の里からもっともっとPRして行ってほしいと期待しています。

では、町の方々から本当によく聞かれる質問をさせてください。立礼席で提供するものは、今後増える可能性はありますか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜振興課長。

○芦屋釜振興課長 新郷 英弘君

御提案ありがとうございます。お答えいたします。

現在、年間を通して立礼席で抹茶と干菓子を提供しており、夏季限定で抹茶アイスと冷茶のセットも選べるようにしております。現在のところ大きく変更する予定はありませんが、施設の雰囲気と調和を図りながら魅力向上に努めたいと考えます。

また町民の皆様の利用促進のため、町広報をはじめホームページ、インスタグラム、あるいはマスコミ等を通して町民の皆様に芦屋釜の里を知ってもらい、訪れてもらえるよう取り組んでいく所存です。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

立礼席の雰囲気もちろん重要ですし、なかなかカフェのようなスタイルにするのも難しいようですが、将来的には港湾から芦屋釜の里に続く周辺道路は観光メインストリートになるのではないかと思います。近隣の空き地や空き家を活用し、気軽に立ち寄れる民間の店舗の誘致なども視野に入れることも、この先必要にはなってくるのかなと個人的には思っています。

では、先ほど「見える化」したらどうかという話を伺いましたが、やはりたくさんの町の皆さんに知ってもらうことが重要だと思います。現在、インスタグラムなどでPRに取り組まれておりますが、ほかにも多様なコンテンツで発信していくことが今後、必要ではないかと思います。芦屋釜ブランドは芦屋町が誇る日本唯一のオリジナルブランド、オンリーワンであります。これを町民に、また職員の皆様にも誇りに思ってもらいたい。重要文化財の最後の1つの芦屋釜が、いよいよふるさと芦屋町に戻ってきます。この最後の1つの芦屋釜の発見から芦屋町に買い戻すまでの様々な御苦勞が非常にドラマチックでありました。関係者の方の誠意や根気、芦屋釜への思いが伝わり、私も非常に感動しました。皆様の中にもそう感じた方々もいらっしゃるのではない

令和4年第2回定例会（長島毅議員一般質問）

でしょうか。

そして、芦屋釜の里は平成7年の創設から30周年を迎えます。芦屋町の宝である芦屋釜の復興から重要文化財芦屋釜をふるさと芦屋に戻すまでの30年、この一連の芦屋釜物語を後世に残し未来につなげるため、何か形に残す考えはないでしょうか。芦屋釜をテーマにした1冊の書籍にするのもいいと思いますし、例えば今、資料館で流れている紹介動画をアップデートし、PR動画を作り直す。そして小中学校で上映するなど、いずれにしても多くの皆さんに知ってもらうことが重要だと思いますので、リニューアルに合わせPRしていくことが必要かと思います。

欲を言えばですね、私の立場、また思いからしたら「ぜひ映画を。」と言いたいところなんです。なかなかそういったことも難しいと思いますので、何かストーリー性のある映像コンテンツなどにして大きくPRしていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜振興課長。

○芦屋釜振興課長 新郷 英弘君

御提案ありがとうございます。

芦屋釜復興事業や重要文化財指定芦屋釜入手の経緯等、一連の記録については、現在のところまとまったものはございません。それらの記録や発信については検討いたします。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

はい、簡潔にありがとうございます。

映画などは多くの町民を巻き込み、機運醸成につながる反面、各所には多大な労力や負担をかけてしまうことは私が1番分かっております。ただ、お隣の水巻町のように最近のPR動画「走る水巻」など2万回再生につながり、まだまだ映像コンテンツは大きなパワーを持っていると思います。動画制作には文化庁の文化芸術振興費補助金やクラウドファンディングなども利用できるものもありますし、私も芦屋釜また芦屋釜の里の一ファンとして協力を惜しまないつもりですので、まだまだ時間はありますのでぜひ検討課題にさせていただきたいと思っています。

次に行きます。

レジャー港化との連携についてお聞きします。また、今後のことで1つ提案させてください。

レジャー港化は周辺機能との連携という目的があります。また、重要文化財芦屋釜の展示施設のオープンと芦屋港の開業時期は非常に近い。連携は不可欠かと思っています。芦屋町の海岸線は、レジャーの芦屋側と歴史の山鹿側とに分かれております。国内などを見てもウオーターフロ

令和4年第2回定例会（長島毅議員一般質問）

ントの呼称は、例えば「みんなとみらいへ 横浜みなとみらい」や「この街と一緒に。神戸ハーバーランド」、また県内では、「歴史とロマンあふれる港町 門司港レトロ」など、日本全国の港の呼称やキャッチフレーズがあふれております。芦屋町でもみんなが親しみやすいキャッチフレーズや海岸線、ベイエリアの名前を考えてみてはいかがでしょうか。

2つの地域を芦屋のイメージ、コンセプトを落とし込んで1つにつなげることで、分かりやすく愛着の湧くエリアになるのではと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

キャッチフレーズについてということですが、まずレジャー港化と芦屋釜の連携に關しまして、レジャー港化につきましては町内の回遊性を高めることを目指しております。芦屋釜をはじめとする歴史文化も貴重な観光資源でありますので、連携は必要不可欠というふうに考えております。このため、まず機運醸成事業におきまして、芦屋釜の里と連携したテストマーケティングに取り組みたいというふうに考えております。また、レジャー港化や芦屋釜の里収蔵展示施設といった新たな町の魅力創出におきましては、それぞれの価値や魅力を高めながら町全体で連携していくことが効果的かつ必要と考えております。

併せまして、レジャー港化においては魅力を高めるためのコンセプトの明確化とともに、議員御提案のように親しみを持ってもらえるようなネーミングやキャッチフレーズが必要とも考えておりますので、今後検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

はい、ありがとうございます。

そういったことも念頭に入れてもらい、今のうちに打って出てほしいと期待しております。

最後になりますが、芦屋町の歴史、芦屋釜そして芦屋町の海を愛してやまない町長、レジャー港化、そして芦屋釜の里を含めた周辺の新しい海岸線の魅力づくりについてのお考えがあればお聞かせください。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野茂丸君

非常に中身の濃い、もう全て言い尽くして、今からやろうとすることを言い尽くしておられる

のではないかと考えておりますが、今、長島議員が御質問されたそれ以外というか、それに欠けてるというか、今後どう進むかという考えをですね、ちょっとお話させていただきたいと思うんですが、今、長島議員は「今のうちに打って出てほしい。」と、これは本当に非常に大事な言葉ですね、今のうちに出ようという強い思いは私だけではないと思いますが。

何度もお話に出ましたように重要文化財のですね、芦屋釜が芦屋に帰ってきたと。昨日もちょっと、ざっと、急な質問やったんであんまりうまく言えなかったんですが、これはやはり芦屋町の芯であると。これはちょっと別の言葉で言うと「心御柱」と言ってもいいんですけど、芦屋町の中心にある、非常に今から先も誇れるというか、そして大事にしなければならない、芦屋町民がみんな芦屋釜の重要文化財があるということに誇りを持ってもらうように我々はしなければならないと思っておるわけでございます。それから、今やろうとしていることは芦屋釜の里を中心として——まあそこが中心になるんですが、今までやっております芦屋港活性化の問題もそうなんですが、それはもう進行形ですので、着々と室長が言ったように進んでおるわけでございます。

それと芦屋釜の里の上にある魚見山荘、それから城山、この2つはですね、昔はもう芦屋の何て言うんですかね、観光地というか名物というか、城山は桜、魚見山はですね、前に子供たちのアスレチックがあったんですね。で、椿も植えてあったと。我々がまだ学生の頃やったんですかね。それがいつの間にか椿がなくなり、城山の桜はどこに行ったんでしょうと。いつも芦屋は、何かやろうとしたら途中で消える。いつも途中で消えていくんですね。それは今度、この魚見山と魚見公園それから城山公園、これを今、コンサルにお願いしております。どういうふうな公園にしたらいいかとか、両方とも。そして魚見公園には子供たちが自然と遊べるようなアスレチック、それも入れてもらうように。それと、芦屋釜の里とその魚見公園の上のほう、ここを遊歩道というか散歩道というか、それをつなげるような散策道をつくってくれということで、コンサルにいろいろ注文してるんですが、どのような絵柄が出てくるか分かりません。

それで、これが今ずっと長島議員もお話されましたが、これはもう2年先にできるとか3年先にできるとかいうものではありません。やはり持続可能に、5年先10年先に完成するかも分かりません。そういうことで一つ一つ、やはり芦屋町のいろんなところをですね、点はいっぱいあるんですね。いいところは、いっぱい点はある。それを線にしくちやいけないということでですね、課題がまだまだたくさんあるんですが、今、一生懸命職員が頑張っております。芦屋の歴史の中には必ずいつも海がある。この海をいつも言ってたんですけど、そこにいろんなものがまたできてきたということで、いろんな資源が凝縮されていますので、港湾、海浜公園一帯を契機としたものを、点と点であったものを線でつなぐ、面として芦屋全体に広げていく、このことが大事だと思っております。

芦屋にしかない芦屋の誇る魅力であるこのことに各課連携して取り組んでおりますので、いま

令和4年第2回定例会（長島毅議員一般質問）

しばらく、どういうものの構想がまず出来上がるかということ、ちょっと時間かかりますけど見守っていただきたいと思っております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

長島議員。

○議員 3番 長島 毅君

貴重な御意見ありがとうございました。これで私の一般質問を終わります。

○議長 辻本 一夫君

以上で、長島議員の一般質問は終わりました。